

令和6年度 明正小学校 自己評価報告書

学校（園）名：中央区立明正小学校

所在地：中央区新川2-13-4

校（園）長名：永木 一郎

児童（生徒）数 391名 学級数：通常級14 通級難聴1 教員数30名 職員数7

1 重点目標の達成状況及び取組状況

※各項目において、達成している（十分達成している＋達成している）
改善を要する（改善を要する＋緊急に改善を要する）
わからない …の3項目について回答の割合を示す。

重点目標1 「学ぶ楽しさの共有」

① 児童は授業の内容を理解し、漢字や計算力などの基礎・基本を身に付けることができたか。

・達成している（95.7%） ・改善を要する（4.3%） ・わからない（0%）

② 児童は学習することの楽しさを感じながら主体的に取り組んでいたか。

・達成している（91.3%） ・改善を要する（8.7%） ・わからない（0%）

重点目標2 「想像力・創造性の育成」

① 児童は様々な集団活動に自主的に取り組んでいたか。

・達成している（91.3%） ・改善を要する（8.7%） ・わからない（0%）

② 児童は状況に応じたあいさつをしていたか。

・達成している（56.5%） ・改善を要する（43.5%） ・わからない（0%）

③ 児童は友達の良さを見つけたり、思いやりの行動をとったりしていたか。

・達成している（87.0%） ・改善を要する（13.0%） ・わからない（0%）

重点目標3 「健康な体の育成」

① 児童は、体育朝会やなわとび大会、マラソン大会等の取組を通して、運動する楽しさを味わっていたか。

・達成している（91.3%） ・改善を要する（8.6%） ・わからない（0%）

② 児童は、手洗い・うがいなどの健康を維持する活動や食育の授業を通して、心身の育成や健康について意識を高めていたか。

・達成している（86.9%） ・改善を要する（13.0%） ・わからない（0%）

上記重点目標については、概ね満足できる達成状況である。昨年度に比べて、「学ぶ楽しさ」項目②が低くなっているため、今後も校内研究等でも学ぶ楽しさについて教職員も研鑽を積み、日々の授業で実践できるようにしていく。

2 重点目標以外の自己評価における達成状況及び達成のための取組状況

児童へのアンケートで「学校に行くのが楽しいですか」に対しては、93%の児童が肯定的な答えを出している一方、「先生たちは、困ったときがあったときに話しやすいですか」では、肯定的な答えが72%となっている。高学年になるにつれ、活動や交流の幅が広がったり、受験であったりと、不安を抱えている児童が増えてきている。学校全体で担任だけでなく、誰にでも相談していいという風潮を常日頃から児童に伝え、不安が解消できるように環境を整えていくとともに、SCや外部への相談機関があることも伝えていく。

教職員のアンケートでは、道徳的な心情や勤労の尊さなど、「実体験を通して身に付けさせていきたい」という意見があがっていた。地域清掃や学校行事に向けての取り組みなど、該当学年への指導だけでなく、他学年へもその活動の意義を伝え、勤労などに対する感謝の気持ちをもたせていくようにする。また学校では、色々な場面で働いている方がいる。その方々に向けて、節目の時期などに感謝することを行い、児童の心を育てていく活動を重視していく。

3 今後の改善方策

重点目標2の②「あいさつ」については、上の学年になるほど、あいさつができていない割合が増えている。教職員の結果でも、改善を要するが半数近くある。今年度は、あいさつ当番などの取り組みを行ってきて、少しずつ改善は見られている。3年生では自主的にあいさつ当番をしている子も見られる。引き続き、来年度もあいさつを広げるための取り組みを継続して取り組んでいく。

重点目標3の①「体力づくり」については、上の学年になるほど外遊びをする児童が限定される。体力調査の結果から中学生女子30%が「1週間の運動時間が60分未満」の結果が出ている。本校では、校庭の広さの関係で、休み時間を分けなければいけない状況だが、体育館を活用したり、体育的行事(マラソンやなわとび)を計画的に取り入れたり、体力向上の取り組みを引き続き行っていく。また、運動の高まりが感じられるように、めあてとふりかえりの時間を大切にし、個人の成長を感じられるようにしていく。

そのほか、高学年になると、いろいろな問題が出てくる。友達関係、勉強(受験)など自分のことだけでなく、友達同士のことで悩んでいたりと、家族のことで悩んだりしていることもある。誰に相談したらいいのか、先生に話していいのかなど、相手の気持ちを考えられるようになってきたからこそ、悩みも複雑化してきている。学期に1回行っているいじめアンケートやクラスの問題や悩みに関係した内容の道徳授業、学校外の相談できる場所の情報提供など、子どもたちの悩みを少しでも解消できるように学校でも取り組んでいく。高学年の教科担任制など、担任以外の教員と関わりを作るなど、担任や校内の教諭だけでなく誰にでも相談してよいという環境をつくっていく。